
仮面の沈黙

izumi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面の沈黙

【Nコード】

N7508B

【作者名】

izumi

【あらすじ】

1、イジメ自殺2、三者面談3、恋

今朝も新山は来てない。いつもザワザワしてる教室がピーンと張りつめた様に緊張感が支配している。

「先生！」一人の女子が立ち上がった。目が虚ろだ。いつのまにか窓を開け、手摺につかまって鉄棒さながらクルツとまわり視界から消えた。

「先生！」またひとり。

「先生！」

他の生徒は定期考査を受験してる。整然と。

窓の外に何があるんだ。見回りに来た教科担当に監督を任せ、教卓の椅子から右に5・6歩。眩しい光源が4階を突き刺していた。よく見ると、新山の青白い顔が見つめていた。

2・夢

ひとり薄笑いを浮かべていやがる奴。

「そんなに成績が良ければ、女子高でもいかがですか？」

「まあ！先生：冗談じゃありませんよ！うちの子は立派な：：」

「いきますよ」自信を持って言いやがった。意地になるぞ！

「よし、じゃーさっそく都内、いや全国を当たってみましょう」

数日後、また三者面談。

「女子高ありましたよ」

「先生：主人とも相談しまして：：」

「そう女子高に入って、一流女子大に入って、世界1の女優になるよ。ボク、ダイエットを成功させて親孝行するの」

3・カワイイコスネた様な顔をして、だけどよって来る。ステキな彼女。

大学教授の娘だって、フーン。

いつか彼女も嫁にいくんだなんて、オレも年をとったもんだ。

はじめてあった時は、何も感じなかったけど、いつしか彼女の魅力

に惹かれていつてしまった。オレはバカか？いや教師だ！

でも恋をして何が悪い。女房や子供がいたってよいではないか。純粹な恋が出来る事を誇りに思う。

「先生ー、明日の理科は理科室でやるんですか？」

「明日は教室」

「エー」

「やな顔するなよ」

プンプンしながら去っていった。

次の日の朝、駅前のファーストフードでハンバーガーを頬張っていると、彼女の姿が見えた。連れがいた。男だ！何てことだ！オレは追いかけてやろうという衝動に駆られた。

でも、ああ…彼氏がいたっていいか…でも彼女はオレのモノだ、悔しい。

男と彼女が手をつなぎ出した。ああもう、お仕舞。中年男が失恋をしてしまった。ワハハ、青春だ！

オレは極力この日、彼女を見ないようにした。だって、自分にも同い年の末娘がいるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7508b/>

仮面の沈黙

2010年11月12日07時38分発行